

平成30年12月1日号掲載 市報ひがしまつしま

トッランナーがSDGsを語る！



持続可能なまちづくりへ

インタビュー全文 第3回 橋本孝一商工会長(東松島市建設業協会会長)

問. 商工会長が考える持続可能なまちとは？またそれを実施していくために必要なことを教えてください。

答. 震災から7年半が経過しましたが、復興において盛況な業種と衰退している業種が出てきています。また、復興が完了したときに衰退する業種と盛況になる業種が出てきそうです。今後この部分をどの様にサポートしていくかが重要であると考えています。

例えばですが、今現在一番活況なのは建設業界だと思いますが、復興後は真逆で一番厳しい業種になると考えています。ですので、この建設業会が復興において一番活況である今のうちに、農業、水産業、工業など別な業種は建設業が厳しくなる前に成長しきっていただきたいと考えています。

ただそこがうまくいかず、伸びないまたは衰退していつてしまっている。この原因が労働者や後継者が少ないことが原因なのか、または経済的な問題なのか、様々な問題から起因していると思うが、商工会としてもしっかりと見極めて企業に合ったサポートをしていきたいですね。様々な工夫をもって元気な地元企業を増やし持続させていくことが、地域の活性化には重要と思います。

問. 東松島市SDGs未来都市計画では、子ども若者、高齢者の人材育成をテーマにしています。高齢者と若者に対するメッセージをお願いします。

答. 前段の後継者の問題とも関係しますが、高齢者の皆さんには、培ってきた経験や知識、ノウハウを活かしてまだまだ地域のために力を貸してほしいと考えています。企業としてはそのために、何歳になっても働ける環境づくりをしていく必要があると考えています。

対して、若い人の活気がないまちというのは絶対に伸びません。それどころか現状維持も難しいでしょう。若者たちや婦人部の方々をいかに活用するか、これがまちの一番の活性化に繋がります。東松島市の若い人たちは機会があれ

ば一生懸命にやる人たちと、私は感じています。

若者の活用は商工会も一番力を入れていくし、行政も一緒になってサポートしてもらいたい点です。

また、女性が働きやすい職場作りを行っていく必要があります。(育休、細かい時間単位での有給取得など)。これらがそろふことで持続可能なまちとなると考えます。

問. SDGs 推進に向けて、取り組むべきことを教えてください。

答. 「人口減少を食い止め、地域社会と経済を軌道に乗せること」が持続可能なまちづくりには欠かせません。そのためにはこのまちから発信できるものを一つでも多く、探すことだと思います。

企業誘致で外から企業を連れてくることも重要ですが、もともと市内に拠点をもっている地元企業の掘り起し(再認識)、それをどう成長させ、持続させていくか。そこを重視すべきと思います。

行政だけでなく商工会や企業、地域が連携して課題解決に向かえばSDGsの推進にもつながるのではないのでしょうか。

